

病歴書

本籍地  
現住所

第六十三師團獨立步兵第十大隊第三中隊

昭和十六年徵集 陸軍兵長 井坂 幸彦

一傷 名 左大腿地雷爆創(左大腿骨縱轉位骨折)兼左斯壞疽

二受傷年月日 昭和十九年一月二十八日

三受傷場所 中華民國山西省平定縣郝家庄南端道路上、

四原因 因別紙現認證明書記載、如シ

五經過

(一)昭和十九年一月二十八日午後三時零分郝家庄南端道路上行動中敵ノ埋設セル地雷爆發ニ依リ左大腿ニ受傷直ニ汽車輸送ニ依リ昭和十九年一月二十八日陽泉陸軍病院ニ收容ナル

(二)當時體温三八二度脈搏稍々頻數微弱顔貌苦悶狀蒼白舌ニ薄苔ヲ衣ス胸腹部ニ理學的著變ヲ認メス左大腿路中央前外側部ニ鶏卵大ノ創存シ同大ノ筋腫出シアリ創面ハ汚染セラレ黒褐色血性分泌液流出ス下肢一般ニ腫脹著明壓痛存ス左下肢運動ニ依リ大腿路中央ニ激痛ヲ伴フレントゲン検査ノ結果左大腿骨上約三分一部位ニ約三五程ノ縱轉位ヲ示セル骨折ヲ認メ又他處ニ骨折痕跡ヲ見レ前層間隙ニ沿ヒ瓦斯發生

シアルルキ像ヲ認ム依ツテ大腿創上部約八釐ノ縱切開ヲ加ヘ創ヲ清拭セリ  
(3) ロントケンレ並ニ受傷機轉臨床症狀ニ依リ昭和十九年一月二十九日病名ヲ左  
大腿地雷爆創(左大腿骨鐵轉屈骨折)ト決定セリ

(4) 翌一月三十日朝左大腿及左下腹部ニ疼痛ヲ訴ヘ體温上昇顔貌蒼白苦  
痛狀脈搏細少頻數緊張微弱ナリ腹壁一般ニ緊張シ特ニ左下腹部ヨリ  
鼠蹊部ニカケ著明ナル壓痛存ス腹壁緊張ハ稍々緩マリテ握雪樣  
感輕度ニ存ス嘔氣嘔吐ヲ催シ白血球六〇〇〇イソシカニ陰性ナリ瓦斯  
蜂巢鐵火、急救ナル進行ニ依ルモノト思考、輸血「リンゲル」葡萄糖等  
ノ體液補給ニ依リ前量置ヲナシ直キニ手術ヲ決シ而シテ症狀良好  
ナラサルモノト認メ第一報ヲ發ス

(5) 左大腿下三分一部位ニ於テ一環狀切法ニヨリ大腿ヲ切断シ断面血管  
ヲ結紮神經ヲ短斷シ断面組織ハ過酸化水素ニ依リ清拭シ筋間ニ「  
レーン」ヲ挿入排液排瓦斯ヲ計レリ次ニ下腹部ニ約十釐ノ斜切開ヲ加ヘ  
腹壁筋間ニ存シアル瓦斯ヲ排出シ同様「  
」ヲ挿入排瓦斯裝置ヲ  
施シ手術ヲ了ル  
(6) 手術所見並ニ臨床症狀ニ依リ瓦斯壞疽ノ病名ヲ兼發シ症狀重篤  
ナルモノト認メ第二報ヲ發ス  
(7) 手術後凡有手段ヲ講シテ心カ、恢復ニ努メタルモ効果ニ乏シク一般狀  
態ハ漸次悪化ス

(8) 同日二十一時頃ヨリ脈搏觸知セズ全ク強心劑ニ反應セズ而シテ呼吸淺  
表トナリ翌三十一日一時半頃ヨリ瞳孔散大角膜反射消失謔語ヲ發シ  
始メ三時頃ヨリ鼻翼呼吸ヲ管ニ心音時ニ結代四肢厥冷シ意識稍  
弱濁ス

(9) 午前三時五十分各種ノ加療モ効ナク心音及呼吸殆ト同時ニ停止シ  
遂ニ鬼籍ニ入ル

大正七年一月一日 昭和十九年一月三十一日  
七死七場所 中華民國山西省平定縣陽泉陸軍病院

右ノ通ニ候也

昭和十九年一月三十一日

陽泉陸軍病院附 陸軍軍醫中尉 一ノ瀬弘道

昭和十九年一月三十日 陸軍軍醫少佐 松尾長栄

昭和十九年一月三十日 陸軍軍醫少佐 松尾長栄

證明書

本籍地

現住所

第六十二師團獨立歩兵第十四大隊第三中隊

昭和十六年徵集 陸軍一等兵 井坂幸彦

一 病 名 瓦斯壕疽

一 兼発年月日 昭和十九年一月三十日

本症ハ別紙所屬部隊現認者調製現認證明書記載ノ勤務中受傷左大腿地雷爆創(左大腿骨縦轉位骨折)ニテハ院加療中、處頭書ノ病名下兼發セリ

右證明ス

昭和十九年一月三十日

陽東陸軍病院長 陸軍軍醫少佐 松尾長栄



陽泉陸軍病院長

昭和三十八年一月三十日

右證明入

陸軍上等兵

陽泉陸軍病院(昭和三十八年一月三十日) 陽泉陸軍病院長

昭和三十八年一月三十日

昭和三十八年一月三十日

昭和三十八年一月三十日

昭和三十八年一月三十日

昭和三十八年一月三十日

昭和三十八年一月三十日

昭和三十八年一月三十日

先之證書... 陸軍上等兵... 昭和三十八年一月三十日

昭和三十八年一月三十日

昭和三十八年一月三十日

昭和三十八年一月三十日

昭和三十八年一月三十日

昭和三十八年一月三十日

昭和三十八年一月三十日

昭和三十八年一月三十日

昭和三十八年一月三十日

昭和三十八年一月三十日

昭和三十八年一月三十日

昭和三十八年一月三十日

昭和三十八年一月三十日

昭和三十八年一月三十日

昭和三十八年一月三十日

昭和三十八年一月三十日

昭和三十八年一月三十日

昭和三十八年一月三十日

昭和三十八年一月三十日

昭和三十八年一月三十日

昭和三十八年一月三十日

昭和三十八年一月三十日

死亡證書

第六十二師團獨立步兵第十四大隊第三中隊

昭和三十八年一月三十日

右昭和三十八年一月三十日對敵行動中中華民國山西省平定縣郝家

庄南端道路上埋設地雷三枚左大腿地雷爆炸創左大

腿骨縱斷位骨折受傷同日陽泉陸軍病院入院又爾後加

療中同月三十日瓦斯瘰疽ヲ兼發翌三十一日午前三時五十分遂

戰傷ニ因リ死亡ス

右證明ス

昭和三十八年一月三十日

陽泉陸軍病院長 陸軍軍醫少佐 松尾長 啓